

# 江戸の唐津相撲人（1/3）

～・領巾山・初瀬川又吉島・松浦岩沖右衛門・波戸崎岸右衛門～

そもそも相撲は、神に相撲を奉納して豊穰を祈願した農耕儀礼信仰の神事であった。神社・仏閣の建立、大修繕のための資金集めとして浄財を喜捨することを人に勧める勸進行事の中で、勸進相撲は、元禄・正徳の頃（1688～1715）より盛んになる。

宝暦年間（1751）に入って隆盛となり江戸の他に、京都の二条河原、大阪は堀江新地の三ヶ津勸進大相撲の場所と仙台、岡山、長崎の五場所の相撲となり、天明、寛政（1781～1800）は相撲の黄金時代であった。

## ■江戸の唐津相撲人

- ・領巾山（1734～1756、宮崎夷伊兵衛材木問屋の後裔）  
材木問屋から大阪場所登場、12、3年負け知らずの大関源氏山を22歳の時倒し、また、四ツ車大八をして「明年より鱒之山に対しては勝者なし」と言わしめた。6尺2寸5分、189cm、体重39貫、146kg。大力無双と評判をとったほどの怪力であったが、宝暦6年（1756）7月13日京都で急死。
- ・初瀬川又吉島（大島出身）。寛政8年2月（1796）引退。
- ・松浦岩沖右衛門（1763～1839）。土井家浪人古館只右衛門の三男秀雄）。寛政11年（1799）2段目に付出され、文化3年（1806）2月場所まで唐津藩抱え力士として江戸にいた。
- ・波戸崎岸右衛門。頭書九州の力士として安永元年8月（1772）大阪場所に西大関として登場『古今相撲大全巻之下』に、「6尺2寸、明和9年（1772）三ヶ津の大相撲関取中古今無双の大男」としてに記録されている。翌年3月江戸で西関脇で出場、その後大坂、京都場所のみ出場、安永8年（1779）江戸場所に出たが全敗、天明元年（1782）限りで引退。

～2/3へつづく～

分野 歴史

◎地図・写真・統計資料など



領巾山四十九回忌供養塔(養福寺)  
〔『末廬國』1994年120号より〕



箕島の墓佐志共同墓地内  
〔『末廬國』1994年119号より〕



鷺が浜頭彰碑  
〔『末廬國』1999年119号より〕

◎引用・参考文献（出典）

- ◆郷土史誌『末廬國』
- ◆『鎮西町史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 江戸の唐津相撲人（2/3）

～・蓑島権右衛門・鷺が浜音右衛門・千田川～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など

～1/3からつづく～

- 蓑島権右衛門（1758～1830、本名野口、唐津西南神田村出身）江戸に上り、天明3年（1783）3月2段束4枚目に書き出されて初出場。天明6年無敵谷風を破る大金星を上げ入幕したが、殆ど幕下十両で幕内には通算4場所つとめた。寛政10年（1798）3月で引退。唐津神田に天明7年、江戸柴三田で出生した嫡男を伴い帰郷。享和2年（1802）、雷電一行が唐津興業をしたとき勸進元となっている。（雷電とは寛政2年から9年まで7年間の土俵上の交わりがあり、蓑島は雷電には7回対戦して全て惜敗している。「原典内閣文庫旧幕府引継書」によれば、寛政3年6月（1791）第11代徳川家斉上覧相撲のとき167名の力士が登場、二十山部屋から「肥前唐津藩蓑島権右衛門」と付出され（32歳）「蓑島は西の真雀にかなひ廻しにて投げられる」とあり、また寛政6年3月では「滝ノ音に敗る」と記されている。

- 鷺が浜音右衛門（波戸出身）江戸相撲の東の関脇までになっている。引退して天保8年（1837）には、江戸相撲の一行を引きつれて帰郷、波戸岬で勸進相撲を行い、郷里に錦を飾った。引退して住んだ郷里の家の天井は、一丈あったというから7尺くらい（約2m30cm）の身長、肩巾は、本間畳一畳より広かったそうである。

- 千田川満島村（東唐津3丁目）の山下家に生まれる。天保6年（1835）10月、出府、玉垣部屋に入門、満島嘉蔵と名乗る。天保7年、大童子峰五郎と改名、同10年11月西幕下筆頭（現在の十両）となり越の海勇蔵と改名、翌天、保11年10月場所より入幕した。努力の甲斐あって以後トントン拍子に昇進し、天保12年（1841）東前頭三枚目となり、越海福松と改名、同15年10月場所を機に玉垣部屋につたわる力士名の「千田川吉五郎」と名乗った。弘化3年（1846）前頭9枚目に転落、11月に相撲界を引退して帰郷。東唐津の宝昌寺には「千田川居士 中町 千田川 嘉永4年12月19日」と戒名が記載されている。

～3/3へつづく～

◎引用・参考文献（出典）

- ◆郷土史誌『末廬國』
- ◆『鎮西町史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)

# 江戸の唐津相撲人（3/3）

～・無敵の雷電が来唐・唐津巡業と藩主御前相撲～

～2/3からつづく～

## ■無敵の雷電が来唐・・・雷電：信州小県（ちいさがた）出身

254勝僅か10敗の実勢をもつ。松江藩抱え。

江戸大相撲の角友唐津相撲人、箕島権右衛門を頼りに来唐した。雷電と千田川は魚屋町の木屋の離れに、その外の関取衆と若者は母屋に、そこから5丁ばかりの相撲場に出かけた。

## ■唐津巡業と藩主御前相撲

左近将監に叙せられた藩主水野忠鼎は、藩校「経誼館」を城内（現大志小学校）に建立（58歳）。取る者、雲州藩抱え26人の面々。相撲場は唐津城裏手の小門埋内門に至る小路より西一町になる五間町馬場と推定される。この相撲人は、大男は波戸崎岸右卫門。御前相撲は1日金15両（現225万円相当）下される。外ご祝儀に皆々に反物を下さる。入場木戸銭は普通銀二匁で、5,900人ばかり入場した。

## ■東京大空襲と郷土力士・小結松浦潟達也

本名 牧山強臣。大正4年5月27日生。馬渡島出身。

16歳の時、錦島部屋に入門。

身長6尺2寸（1m86）。体重29貫500匁（112キロ）。

初土俵が昭和5年5月場所。9年5月幕下、13年5月場所には大蛇潟を襲名、東十両に昇進。15年1月場所には、再び松浦潟のシコ名に復帰待望の入幕を果たし、東前頭19枚目となる。見事な体格と胸のすくような綺麗な取り口は、人気の的となり、三役入りを保証され、郷里および佐賀県民の期待を一身に集めていたが、惜しくも昭和20年3月10日の空襲で、行方不明となり、再び土俵上で英姿を仰ぐことはなかった。

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



雄々しい関取姿「千田川」  
浮世絵師一陽斎豊国が当時の有力力士を描いた中にこの「千田川吉五郎」が描かれている

（『未慮国』より）



松浦潟

（宮島醤油株式会社HPより）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆郷土史誌『松慮国』
- ◆『鎮西町史』
- ◆久保の土俵形の墓
- ◆行司の道具
- ◆宮島醤油HP

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)